

【交流学习】全日制

1月16日(水)、小学部1年生から6年生で、現地校のアダカオ小学校を訪れ、交流学习を行いました。

パートナーのクラスの授業を見学したり、図工の授業を受けたりしました。また、チャモロ文化のひとつである「椰子の葉を使った葉編み」を体験し、魚の形やバッタの形の作り方を教えてもらいました。

日本人学校からは「ふるさと」の合唱発表をしました。アダカオ小学校の児童たちに、歌がどんな情景を歌っているのか、英語で紹介しました。最後に、日本の四季を英語と折り紙で紹介し、手作りのしおりをパートナーへプレゼントしました。

自分のパートナーがどんな相手なのか、英語でどんな話をしたら良いのかと、心配しながらバスに乗り込んだ児童も、実際にパートナーに会って話してみると、それまでの緊張が解け、お互いに笑顔で楽しい時間を過ごすことができていました。

少ない時間ではありましたが、交流学习を通して、様々な体験をさせてもらうことができました。

小学部の交流学习は、隔年で本校とアダカオ小学校の交互を舞台として実施されるので、来年度は、アダカオ小学校の児童が本校を訪れることになります。

貴重な体験からどんなことを学べたか、感じることでできたか、子どもたちからしっかりと引き出して、これからの学習に繋げていきたいと思えます。

【英語主任 和田直子】



【山野井教諭が受賞】幼稚部



このたび、グアム日本人学校幼稚部主任の山野井多美子教諭の論文が、最高位の『大賞』に選ばれました。この論文は、昨年度からの幼稚部の取組を記録した『ヤシの木が食べられちゃう!』と題する400字詰原稿用紙10枚に及ぶ保育実践記録で、小学館『新・幼児と保育』誌上の『第54回 平成30年度「わたしの保育記録」(主催:一般財団法人 日本児童教育振興財団、後援:小学館)』に応募したものです。多数の応募のなかから、山野井教諭の保育記録が、『大賞』(1名)に輝きました。

「先生、ヤシの木が枯れてるよ」

園児のこのひとことから、この取組がはじまりました。グアムには生育しなかったはずのカブトムシ(ココナツビートル)がヤシの木に卵を産みつけ、その幼虫がヤシの幹を食べつくしてしまいます。グアムの象徴のヤシの木が次々に枯れてしまう被害が、近年問題になっているところでした。「ヤシの木を守りたい」という気持ちと、カブトムシをかわいと思う気持ちとの葛藤のなか、子どもたちは話し合いを重ねます。そして子どもたちは、学校敷地のヤシの木を総点検したり、「ヤシの木を守ろう」とポスターづくりをして、各所に掲示してもらったり、校内放送で小学部・中学部に呼びかけてココナツビートルの生態と一緒に学習したり、幼虫を駆除するわなを作ったり…等と、ヤシの木を守るという問題解決型のプロジェクトを展開していきました。

保育記録では、子どもの活動を中心に据えながら、この取組の様子が目に浮かぶように述べられています。

山野井教諭は、「この活動を通して、子どものひらめき、自然に対する鋭い感覚、素直な驚きに敬意を払いたい気持ちになった。」と心境を綴っています。

保育記録『ヤシの木が食べられちゃう!』は、『新 幼児と保育』平成31年2/3月号(小学館)に掲載されています。

また、『新 幼児と保育』の公式サイト、<https://www.babycome.ne.jp/infant/hoiku/>にも全文掲載されています。どうぞ一読ください。

幼稚部園長 井澤 恒晴

